

⑦ 野外学習活動と集団宿泊研修

1 野外学習活動

一般に“遠足”と呼ばれらわされていた校外での学習活動を、本校では昭和49年度から“野外学習活動”と呼称するようになった。従来遠足は、昼の勤務の都合で日曜日に実施していたが、日曜勤務の生徒もいて、出席率が低くなる傾向にあった。このため、遊び気分を払拭し、遠足を学習活動の一環として位置づけるべく、野外学習活動の名称が生まれたのであった。

(1) 改称当時の実施日と行先

- 昭和49年 5月19日（日）実施
〔1年：岩屋寺 2年：天山古墳 3・4年：大洲〕
- 昭和50年 4月27日（日）実施
〔1年：白滝 2年：鹿島 3年：興居島 4年：重信川〕

(2) 白滝での野外学習活動に参加した生徒の感想

野外学習活動に参加して最も心に残ったことは、

- ① クラスメイトに親近感を覚えたこと
- ② 全日制では見られなかったものが、定時制では見られたこと
- ③ 先生の琴線に触れることができたこと
- ④ 自然の美しさを再発見できたこと
- ⑤ 私の田舎に帰ったようで、心の安らぐのを感じたことです。これ以外にもまだまだたくさんあります。

－ 活動風景① －



（『創立百周年記念誌』より）

－ 活動風景② －



（昭和 56 年度卒業アルバム『夜窓』より）

以後、4月の第4日曜日がこの野外学習活動日に充てられている。

2 集団宿泊研修

新入生集団宿泊研修は、青少年の集団生活における規律の自覚と訓練および親睦を目的として、それ以前のリーダー研修を受けて発足、昭和47年度から夏季特別研修の名目で、1年生および編転入生を対象に実施された。

(1) 最初の集団宿泊研修

- 研修場所：国立江田島青少年交流の家（広島県）
- 参加人数：115名〔1年生78名、編転入生37名〕

(2) 参加した生徒の感想

今、私の周りにはいろんな、そして数多くの友達があります。私が一人ぼっちじゃないってこと、私の周りに友人がいてくれること、そして3日間だけでも規律正しい、人間として大切な時間を持てたこと、この一生のうちのたった3日間、この思い出そして友人の愛が、これからの私にプラスになることを信じています。

(3) その後

市内定通制振興会の補助もあり、翌48年度からも継続実施。昭和50年度からは、「特に多い生徒の途中脱落に対し、その防止対策として、この研修が最も効果的な指導法である」と国・県の補助金が交付されるようになった。〔この年から北条青少年スポーツセンターに研修場所を変更した。〕

－ 江田島研修（昭和49年）－



（『公孫樹』第31号より）